

2026年度 東北公益文科大学
大学院修士課程入学者選抜（第2期）

試 験 問 題

小 論 文

| | | | |
|------|--|-----|--|
| 受験番号 | | 氏 名 | |
|------|--|-----|--|

<受験上の注意>

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いたり、裏返したりしてはいけません。
- ② 小論文の問題は全部で1頁です。
- ③ 解答用紙は全部で3頁です。
- ④ 受験番号と氏名を、問題冊子、解答用紙のそれぞれ所定の欄に、必ず記入してください。
- ⑤ 問題の解答時間は60分です。
- ⑥ 解答は、別紙の解答用紙に800字以上1,200字以内でまとめてください。
- ⑦ 解答用紙は、横書きで記入してください。
- ⑧ 問題冊子の余白は下書きに用いてもかまいません。
- ⑨ 解答用紙の余白には何も書いてはいけません。
- ⑩ 問題に疑問のある場合は黙って手を挙げてください。ただし、問題の内容に関する質問については、受け付けない場合があります。
- ⑪ 印刷に不鮮明な箇所がある場合は、黙って手を挙げてください。
- ⑫ 解答用紙については、汚れても新しいものとは交換しません。そのまま提出してください。
- ⑬ 終了の合図で、筆記用具を置いて解答を終えてください。
- ⑭ 係員が問題用紙および解答用紙の回収を終えるまで、席を立たないでください。

下記の2つの問題から1題を選択し、800字以上、1,200字以内で述べなさい。

問 題

1 小松隆二は公益学の誕生について以下のように論じている。

「一九九〇年代の後半に入っても容易に立ち直りきれない日本をはじめとする世界の経済的混迷は、市場原理や競争万能視点への不安や不満も生み出した。同時に、公益理念を基本にする中央・地方の行政機関、大学・学校、病院・医療、公益諸法人などの領域においても、各々の本来性を喪失し、目標や使命を見失ったかのように、問題や矛盾が表面化する事態も相次いだ。そのような激動のなかで、市場原理とは対極に位置する公益学が徐々に姿をのぞかせてきたのである」(小松[2000]p. 19)。

1990年代の社会世相を背景に公益学が誕生して以降、公益学は四半世紀の歴史を積み重ねてきている。「これまでの公益学」および「今後の公益学」についてあなたの考えを述べなさい。

引用文献

- ・小松隆二(2000)『公益学のすすめ』慶應義塾大学出版会

2 子どもにとって体験活動の意義は認められているところだが、さまざまな要因によって、子どもたちの間に、特に学校外での体験機会の格差があることがいくつかの調査で明らかになっている(チャンス・フォー・チルドレン 2022; 国立青少年教育振興機構 2024; 松浦他 2025)。こうした体験格差について、①その要因としてどのようなことが考えられるか、②体験格差を解消するためにどのような対策があるか。この2点についてあなたの考えを述べなさい。

引用文献

- ・チャンス・フォー・チルドレン(2022)『子どもの「体験格差」実態調査最終報告書～全国の小学生保護者2,097人へのアンケート調査～』
https://cfc.or.jp/wp-content/uploads/2023/07/cfc_taiken_report2307.pdf
- ・国立青少年教育振興機構(2024)『青少年の体験活動等に関する意識調査(令和4年度調査)報告書』<https://koueki.net/user/niye/110376019-1zentai.pdf>
- ・松浦海斗・室岡太一・宮下和士・谷口守(2025)「全国把握を通じた子どもの体験格差の課題—余暇的活動の実施状況に着目して—」『実践政策学』11(2)、243-253